



宮崎県物産貿易振興センターNEWS

Miyazaki Prefecture Products Trade Promotion Center News Paper

Vol.34



新年のごあいさつ

社団法人宮崎県物産貿易振興センター 会長 佐多 芳大



新年あけましておめでとうございます。
平成二十四年の年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

会員の皆様方におかれましては、日ごろから当センターの活動に對しまして格別の御理解と御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は東日本大震災という未曾有の大災害に見舞われ、全国的に消費が冷え込み、当センターのアンテナショップでの売上も大変厳しい状況にあり、昨年十一月末現在で対前年比七二％となっております。

このような中、当センターでは、昨年四月にみやざき物産館をリニューアルし、店舗外での賑わいづくりのため「みの下マルシェ」を年間通じて開催するなど、観光客だけではなく地元の方に利用される店舗づくりに努めてまいりました。

また、物産展や商談会への参加などの販路拡大支援や新商品の開発、既存商品の商品力アップ、東アジア等の海外への販路拡大なども積極的に取り組んでまいりました。

今後とも、本県を取り巻く経済状況は厳しいものがあると予想されますが、これまで以上に県産品の需要、販路の拡大に努力してまいり所存でありますので、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が皆様方にとりましてすばらしい一年になりますよう、心から祈念申し上げ新年のあいさつとさせていただきます。

平成二十四年元旦



TOPICS

みやざき物産館ディスプレイ

クリスマス
お正月

みやざき物産館のディスプレイも12月からは冬色に衣替えしました。2011年11月11日に本県のシンボルキャラクターとなった『みやざき犬』を主役にし、12月25日まではクリスマスバージョン（写真①）で飾りつけました。また、12月26日からは、みやざき物産館を訪れるお客様にも新年を迎える新しい気持ちになってもらえるよう、お正月（写真②）のディスプレイに変更しました。

なお、サイドディスプレイには、早く皆さんに馴染んでいただけるよう、みやざき犬「ひい」「むう」「かあ」の紹介をしておりますので、是非ご覧ください。

（企画課 相川）

みやざき物産館の10・11月の売上比較

みやざき物産館十・十一月の売上は対前年比43％となりました。

昨年度はこの時期大規模の全国大会・九州大会等を開催しており、当物産館にも多数のご来場者がありましたが、今年度はレジ通過客数も対前年比51％となっております。

今年度は、「みの下マルシェ」毎週、出展曜日を決めて出展いただいている企業がいらっしゃいますが、お昼休みには列が並び、回を重ねる毎に売上を伸ばしております。随時お申し込みは受け付けておりますので、会員の皆様のご参加をお待ちしております。

（営業課 濱田）

品目	平成23年度	平成22年度
食品	40,000	80,000
酒類	10,000	15,000
工芸	5,000	10,000

毎度ありがとうございます！

センター職員紹介

初めまして、私はこの度東京支部営業課長に任命されました縣です。

早いものでコンネに採用され、微力ながら11年間やってまいりました。

今回、突然の任命にその職責の大きさ、重さに身の引き締まる思いで一杯です。役職に肩肘はることなくコンネのスタッフ全員の力を結集して更にコンネを利用される皆様から喜んで頂けるよう力尽くして参りますのでよろしく願いいたします。

（新宿みやざき館 KONNE 縣 広志 課長）

今年4月から、みやざき物産館の観光コーナーで「観光・物産情報ガイド」兼「県庁ツアーガイド」として勤務させていただいています。

どちらも、県内外のお客様と直接関わることができる仕事です。たくさんのお客様との出会いを通じて、日々勉強させていただいております。宮崎のことを少しでも好きになっていただいて、また宮崎に来たい！と思っていただけるように、精一杯PRしていきますので、よろしくお願いいたします。

（観光コーナー 田場 香織）

（同僚からのコメント）

今年の4月、初めてお会いした時の印象は”ティンカーベル!?”でした。

持ち前の優しさで、お客様や周囲の人をホッくり幸せにしてくる存在です。ある人曰く「田場さんは怒ったことあるの?」と。

そうです、そのくらい包容力のある後輩です。

（観光コーナー 高尾）

（同僚からのコメント）

現場を熟知しているので、課員一同大船に乗っています。

健康に留意して、決して無理はしないで下さい。

満点上司ですが、そこが心配です。

これからお客様が増え大漁となるように、コンネ丸を共に漕いでいきましょう。

（新宿みやざき館 KONNE 峯岸 史恵）

発行 社団法人 宮崎県物産貿易振興センター

〒880-0804 宮崎市宮田町1番6号 県庁8号館
TEL: 0985-22-7389 FAX: 0985-22-7497
URL: http://www.m-tokusan.or.jp/
E-Mail: info-00@m-tokusan.or.jp

中国 北京・天津商談会開催！

本県訪中国が中国を訪問

去る11月7日から11日まで中国の北京・天津エリアに商談ミッションを派遣しました。

今回のミッションは水産物、水産加工品、茶、焼酎及び木材、木工品などのメーカー等11社が参加しました。

11月8日には北京市内のホテルで中国企業との貿易商談会を開催し、中国側のバイヤー23社と商談を行いました。県産品の安心・安全、パッケージの良さ、味についてPRしました。

▲天津伊勢丹の視察

11月9日・10日には、北京・天津市内の小売店、商業施設、中国企業、関係機関等を訪問し、意見交換、視察を行い、多くの中国の食品輸入関連情報を収集できました。

今回のミッションでは、改めて日本食品に対する中国企業の高い評価を実感でき、参加された企業にとっても実りの多いものとなったようです。

当センターとしても、参加企業のアフターフォローを行うとともに海外販路拡大に努めていきたいと思います。

（企画課 吉松）

新宿みやざき館 KONNE 通信

新宿みやざき館 KONNEの10・11月の営業も厳しい展開となりました。来店客数の伸び悩みが続いています。

このような時期は週末催事での店頭盛り上げが大きな援軍です。この二ヵ月間では「麦みそフェア・ちりめんフェア・生姜シロップ販売会・日南よっくだはり市・しいたけフェア」などが催され店頭も大いに盛り上がりました。会員の皆様には、ぜひ新宿KONNEでの催事に参加していただきたいと思っております。

さて、先日会員の皆様にご協力をお願い致しましたアンケートの集計が進んでおります。速報レベルですが、お褒めの言葉があれば、厳しいご意見を頂くところもあり、改善すべき課題について真摯に取り組むことを再認識致しました。

特に当館からのフォローアップについては、重要な課題の1つと考えており今後、会員様への情報発信を少しずつ強化し、ご期待に添えるよう努力しています。ご協力頂きました会員様には、心からお礼を申し上げます。

▲お楽しみ抽選会場の様子

みやざきの工芸品展 2011

本県の工芸品を県内外に広く紹介することにより、工芸品に対する理解を深めてもらうとともに、普及を図ろうと10月21日から27日までの7日間、宮崎空港1階オアシス広場で工芸品展を開催しました。

話を開いたり、実演風景を熱心に観入っていました。

この工芸品展は年々売上が減少しているところから、協会理事会で議論を重ね、今年はみやざきの匠との共演のほかに、3000円以上お買い上げいただいたお客様に駐車場2時間無料サービスや、5000円以上お買い上げいただいたお客様には送料無料サービスなど売上向上のための企画を取り入れられました。その結果、お客様の商品購入の動機付けとなり、販売につなげることができました。

売上は、232万円と昨年の142万円を大きく上回ることができ、効果的に集客につながったのではないかと思います。

（企画課 相川）

当センターといたしましては、今後とも宮崎県の工芸品の素晴らしさを県民や観光客の皆様にアピールし、工芸品の消費拡大に努めてまいりたいと考えております。

出展者の皆さん、本当にお疲れさまでした。

（企画課 相川）

この工芸品展は例年「宮崎県伝統的工芸品展」として11月の「伝統工芸品月間」に合わせてこの時期に実施しておりましたが、第27回目となる今年は宮崎の工芸の魅力をより幅広く伝えるため、みやざきの匠の表彰者にも出展していただきました。

今回は伝統的工芸品から16社、みやざきの匠から8社の計24社が参加し、訪れたお客様は職人から

第52回 楠並木KONNE市報告

「楠並木秋の味覚祭り」

去る11月15日（火）・18日（金）にかけ、題して『第52回楠並木KONNE市・楠並木秋の味覚祭り』を開催いたしました。

前半（11/15・16）の様子
後半（11/17・18）の様子
お楽しみ抽選会場
「み」の下マルシェ

今回は、「楠並木秋の味覚祭り」と題し、えびの産の新米や椎葉産の新そば、ふぐの天ぷらなど、旬にこだわった商品を各企業から出品いただいたところ、お客様には大変好評でした。

最終日はあいにくの雨となり、肌寒い一日となりましたが、会期中の売上は、前回は上回るものが出来ました。

また、前回に引き続き夕方6時までの開催とし、仕事帰りの方々にもお買い求めしやすい取り組みを行いました。

（営業課 鬼束）

10月27日に今年度第二回目の理事会を開催しました。今回の理事会では、入会審査の審議が行われるとともに、平成23年度上期売上報告及び収支報告、新公益法人移行、中期経営計画の3件について報告しました。入会審査については、今回、12の企業及び団体から入会の申請があり、審議の結果、全ての入会が承認されました。

上期の売上については、みやざき物産館の売上対前年比63.0%、予算比91.1%、新宿みやざき館KONNEの売上が対前年比74.6%、予算比99.8%となっていることなどが報告されました。

中期経営計画については、中期経営計画の策定イメージ及び中期経営計画の骨子（案）を示し、平成24年度から26年度の3年間を計画期間とし、新公益法人制度移行と連動させながら、今後、センターの行っていくべき事業展開の方針、収入、支出の目標を設定することにより策定することを報告しました。

（企画課 松吉）

新公益法人制度移行については、公益法人制度が改正され、平成25年11月末までに、公益社団法人の認定申請又は一般社団法人の認定申請を行う認定等を受ける必要があること、移行形態を檢討するため検討委員会を設置し検討した結果、公益社団法人への移行を目指すこととなったこと、総会での承認を経て、平成25年4月1日の新法人設立というスケジュールで進めることが報告されました。

新商品開発支援事業

本事業では、県内の素材を活用した新商品の開発や既存商品の大幅なリニューアルに意欲のある企業を年度当初に募り、選定した8社の指導を県産品アドバイザーへお願いしています。

去る11月28日（月）・12月1日（木）にかけて、県産品アドバイザー西原昌男氏による商品開発に対する指導が行われました。今回で、西原アドバイザーの指導により、県内の素材を活かした新商品が生まれようとしています。年度内に残る2回の指導を通して、一品でも多く商品化されるよう、今後とも支援してまいります。

（営業課 鬼束）

く、指導いただいた内容から独自に工夫し、新しい商品を開発する動きも見られます。さらに、農政部や食品開発センター等の研究機関にも立ち会いたくことで連携が深まり、次の展開が非常に楽しみです。

企業によって体制や生産量、得意分野等々異なる中で、アドバイザーからの的確な指導により、県内の素材を活かした新商品が生まれようとしています。年度内に残る2回の指導を通して、一品でも多く商品化されるよう、今後とも支援してまいります。

（営業課 鬼束）